

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.5
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.4
1 音環境		3.1	0.15	-	-	3.1
1.1 騒音	45<騒音レベル≤50	4.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	Dr-40	3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.9	0.35	-	-	2.9
2.1 室温制御		4.1	0.50	-	-	
1 室温	設計室温を冬期22℃、夏期24℃にて設定 窓部:U=1.69、外壁部:U=0.617~0.769	5.0	0.50	-	-	
2 外皮性能		4.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	1.00	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	告示対象外の建材およびJIS・JAS 規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	5.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	空気取入口は敷地周囲の状況を勘案し汚染源のない方位に、かつ各種排気口と異なる方位、かつ6m以上離して設けている。	3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		5.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	手動による計測を行う。空気質を適正に維持するため管理マニュアルを整備し運用する。 4階に喫煙室を設置。給排気は他の系統とは独立して設け(第3種換気)、間仕切壁はスラブ-スラブ間とし、隙間等をシールしている。	4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	地区・建物コンセプトを「段丘都市」とし、店舗の内装は「素地+塗装」の計画とした。照明コンセプトを「育む光」とし共用部は色温度:3000Kとした。	1.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	大・小便器は壁掛け式としホコリのたまりにくい計画としている。外壁塗装にフッ素を使用、鉄部は溶融亜鉛メッキ処理を行う。 1.7%以上のゴミ置場と、0.3%以上の倉庫のスペースを確保している。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	給水:VP(B)、排水:耐火二層管FDPD(B)、消火:SGP(C)、Eは不使用。	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	通信手段の多様化、電話は2ルート化を図っている。浸水の恐れなし。	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			4.0	0.20	-	-	
壁長さ比率=0.29							
EPS、分電盤、ケーブルラックで仕上を痛めず更新・修繕出来る計画。							
EPS、分電盤、ケーブルラックで仕上を痛めず更新・修繕出来る計画。							
バックアップ予備スペース確保。将来、増築部からの電源供給も計画。							
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
3階自由通路に面し空地状スペースを確保し憩いの場に供している。また3階デッキに吹抜を設け下階にも風や光が抜ける計画とした。							
卓越風の事前把握を行い、夏期の卓越風向に対し建物の見付面積を49.4%としている。風向きに対し配置や形状につき机上予測している。							
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			3.0	0.50	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			4.0	0.50	-	-	
エネルギー目標値を事業者に提示。運用管理体制を作成している。							
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.29	-	-	
基礎躯体に高炉セメントを使用。							
長尺シート・タイルカーペット(床)、タイル(壁)にリサイクル材を使用。							
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が4つ有る。							
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
ODP=0、GWP(100年値)=1のノンフロン断熱材を使用。							
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			5.0	0.25	-	-	
計量により種類・量を推計、多種分別スペースを確保し、容器の設置計画をしている。							
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			4.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			4.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			4.0	0.30	-	-	
商業地域だが隣接する準工業地域の5h/3hの基準を満たしている。							
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-	
街全体で照明計画をコーディネートしている。広告物に対しては、点滅や動いたり、投光照明の着色は行わない計画としている。							
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	